



機能的に全体を美しくデザインした空間、 「ビューティリティ リビング」を創造しました。

いわゆるクルマの室内ではなく、あくまでもインテリアとしてのデザインに。クルマで過ごす時間を重視し、上質な居心地や空間としてまとまりのある美しさを。いわば北欧スタイルのような、BeautyとUtilityの融合をめざした、「ビューティリティ リビング」をコンセプトにデザインしました。人にやさしくリラックスできる「カタチ・色・素材」、見て、触れて、心地よい「質感」、座り心地のよさが目に見える「シート」、さりげなくスマートに使える、収納をはじめとする「ユーティリティ」を追求。乗る人全員が主役と感じられる、Hondaならではのホスピタリティあふれるインテリア空間に仕上げました。



女性視点プロジェクトによる取り組み

今回の開発にあたっては、日常もっとも利用することの多い子育てママ層の気持ちをつかむことが大きなテーマのひとつとなりました。そこで、「女性視点プロジェクト」を結成。真に女性の求めるミニバンをめざし、その発想を開発初期から反映させていきました。「母としての我慢を減らす」「母としての喜びをふやす」「女性としての喜びをふやす」をポイントに、トレンドリーダーの方々の協力をあおぎつつ、体験ワークショップやリサーチを重ねるなかで見出したこと。その最たるもののが、実は人々がいいと感じるものは「ジェンダーフリー」であるということです。とりわけ、デザインにおいては、そうした価値観の変化をベースに、ひとつひとつの要素を掘り下げ、磨き上げていきました。

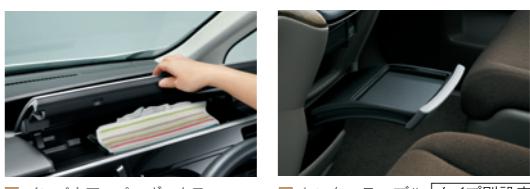
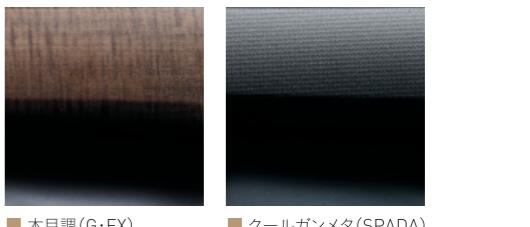
■ 上質さをシンプルに表現したフロント席まわり。

色や素材でカタチをつくる。濃淡で深みを出す。まとまりを大切にしながら、広がりを生み出す。そんなデザインへの意思是、インパネまわりにも表れています。安定感あるロアボードの上に、薄くワイドなアッパーBOARDがフローティングする構成で、落ち着きある伸びやかさを表現。クリアセンターパネルは2層成形で、立体感や奥行きをもたせた高い質感を実現しています。そこに、視線移動が少なく見やすいアウトホイールメーターをインテリアと違和感なくなじませ、統一感あるデザインに仕上げています。



■ ソリッドな素材感を活かした、こだわりの加飾。[タイプ別設定]

上級グレードのインパネには、3Dフィルムによる立体的で厚みのあるインテリアパネルをあしらいました。見た目はもちろん、手触りのよさでもプラス。ステップワゴンの木目には無垢材のような温かみを、SPADAのメタルには硬質感をしっかりとさせています。さらにエッジには、シルバーのモールで、アクセントをつけています。



■ きちんと「しまえる」ユーティリティを。

家族の楽しいドライブにテーブルやポケットなどの収納は欠かせません。こうしたアイテムをしっかりと備えつつ、空間をよりスマートに使ってもらえるよう、これまでの取り出しやすさ、置きやすさから、きちんと「しまえる」ことを第一に考えました。それを具現化したのが、メーター手前に設けられたインパネアッパーBOX。ティッシュボックスや財布など、収納することができます。またインパネ中央下にはセンターテーブルを装備。インパネ内蔵型で使用しない時は完全格納できます。

■ 見た目からも座り心地のよさが伝わるシート。

まさしくリビング、といえる空間に仕立てるために、シートの見せ方を重視しました。

● 1列目シート

シート表皮を背面までくるりと巻き込んだ北欧家具のようなモダンなデザインに。また座面、シートバックともに耐圧分布を低減し、座り心地も向上させています。

● 2列目シート

タンブル格納からロングスライドに変更したことでのシートバック、ヘッドレストをサイズアップ。パッドも厚くし、座り心地を高めています。キャブテンシートでは、シートレールとシートの取付構造をフローティング構造とすることで、路面からの入力を低減し、乗り心地を向上させています。6:4分割ベンチシートでは、ソファのような包まれ感のある座り心地をもたせています。また、スライドレールの低フリクション化により、操作荷重を従来モデルの約1/3にし、使い勝手も向上させています。

● 3列目分割床下格納シート

ミニバンの3列目シートの座り心地と、床下格納機構を両立すること。このむずかしい課題に対し、シート表面に用いるSバネの長さを、十分な沈み込みが得られるよう確保。さらに座面角を増やすことで座り心地に優れたシートを実現しています。



写真はキャブテンシート